

経営情報学科の学びの基礎となる科目群

年次	期	科目名	概要
1年	前期	経営学基礎Ⅰ	<p>経営学が研究対象としている「企業」に関して、その存在がわれわれの暮らしと深く結び付いていることと企業経営のしくみについて学習する。特に企業経営のしくみについては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①現代企業の特徴と巨大株式会社の経営、 ②企業経営の目標の一つとしての利益、 ③企業が利用できる資源、 ④マネジメントの意味と組織づくり、 ⑤経営システムと情報システム、 ⑥経営戦略、 <p>についてみる。</p>
1年	後期	経営学基礎Ⅱ	<p>経営資源の運営についてみていく。まず、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①製品やサービスの開発と生産、 ②製品やサービスの販売とマーケティング、 ③資本の調達と運用、 ④経営分析の基礎、 ⑤人材の活用とキャリア・ディベロップメント、 ⑥目には見えない企業文化の重要性、 <p>について解説する。次年度以降に開講される経営学分野のさまざまな講義を理解するための基本的な事項である。</p>
1年	前期	会計学基礎Ⅰ	<p>本講義の目的は、初めて会計学を学ぼうとする受講生に対して、会計学の入門的な知識を提供することである。会計はしばしば「ビジネスの言語」と形容されるなど、現代社会を理解するための基礎的なツールとなっている。</p> <p>本講義ではまず複式簿記の基本的知識を修得したうえで、日常の取引について自分で仕訳を行い、勘定へ転記できるようになることを目指す。</p>
1年	後期	会計学基礎Ⅱ	<p>会計学基礎Ⅰで修得した基本的知識をもとに、まず本講義では決算整理の手続きを学習し、精算表を用いて損益計算書と貸借対照表を作成できるようになることを目指す。次に、会計の役割や現行制度について概説するとともに、利益計算や資産評価の基本的な概念を理解する。最後に、財務諸表の利用者としての観点から、架空の決算書を用いて財務諸表分析を行う。企業を深く知り、適切な意思決定を行うためには会計の</p>
1年	後期	日本経済論Ⅰ	<p>日本経済の特徴を理解するために必須と考えられるいくつかの論点を選び、マクロの視点から経済史的な捉え方を重視しつつ、体系的かつ包括的に講義する。すなわち、①経済および経済学の流れを概観し、②日本の経済学の発展のあとをたどり、③日本経済を論じる場合の注意点について触れ、④時代区分しながら戦前・戦後の経済がどのように発展していったのかを考えさせ、⑤景気・雇用・物価など個別指標を活用したマクロ経済の動向把握の方法を学び、⑥産業構造や企業経営の特質を理</p>

経営情報学科の学びの基礎となる科目群

2年	前期	日本経済論Ⅱ	<p>現代日本人として必要な常識および判断力を身につけさせるよう、日本および日本を取り巻く内外の経済情勢についての幅広い知識を教授する。すなわち、</p> <p>①深刻な問題となっている財政を取上げ、税と社会保障の関係、国と地方の関係、公共部門の効率化などの観点から具体的な問題点を抽出し、解決に向けた取組みについて考えさせ、</p> <p>②米欧、新興国などグローバル経済の現況を日本経済との関係を中心に論じ、</p>
1年	後期	経営情報基礎Ⅰ	<p>情報技術によって競合他社と差別化を図り競争優位を確立していくことは、現在の経営組織にとって必要不可欠な問題になっている。このため業務の効率化から経営意思決定の支援に至るまで、拡範囲にわたって情報技術が利用されている。ここでは経営と情報技術とのかかわり、なかでも企業経営における情報システム利用の歴史、経営情報システムの目的、理論、構造、活用方法などについて理解し、現代のビジネスパーソ</p>
2年	後期	経営情報基礎Ⅱ	<p>経営情報処理基礎Ⅰに続く科目である。ここでは経営における情報の活用について、経営学の主な話題のひとつである意思決定と問題解決における情報の利活用を中心に学ぶ。具体的には知識ベース技術、意思決定支援システム、エキスパートシステム、ナレッジマネジメントなどの先端的活用方法、経営情報を活用した顕在・潜在する問題の明確化、種々の問題解決技法による情報のビジュアル化と情報共有などについて</p>
1年	前期	コンピュータ活用演習	<p>情報化社会に欠くことのできないコンピュータについて基礎的な知識と利用技術を習得する。主としてオペレーティングシステム、日本語入力、テキストおよび数値データの作成・修正、電子メール、印刷処理等の使用法と活用法を学ぶ。複数の教員が習熟度別クラスで並列した講義を行う。各クラスは、以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コンピュータの操作が比較的得意な学生対象の発展クラス。 2) コンピュータの操作が苦手ではない学生対象の標準クラス。 3) コンピュータの操作が不得意な学生対象の基本クラス（再履修生を含む）。 <p>初回のガイダンスでクラス分けテストを行い、クラスを決定する。</p>
1年	後期	情報処理演習	<p>教養の必修科目『コンピュータ活用演習（前期）』に続いて、コンピュータ利用の中級コースを学ぶ科目と位置づける。具体的には、表計算ソフトを中心に利用し、表・グラフ・データベースの作成・加工など、実習を通じてデータ処理の実際を学ぶ。習熟度別に以下の3種類のクラスに分ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コンピュータの操作が比較的得意な学生対象の発展クラス。 2) コンピュータの操作が苦手ではない学生対象の標準クラス。 3) コンピュータの操作が不得意な学生対象の基本クラス（再履修生を含む）。 <p>『コンピュータ活用演習（前期）』の成績によるクラス分けを初回ガイ</p>